

令和元年度第1回酒田市地域公共交通会議議事録

(敬称略)

| | |
|--|---|
| 会議名 | 令和元年度第1回酒田市地域公共交通会議 |
| 開催日時 | 令和元年7月4日(木) 11時00分～12時10分 |
| 開催場所 | 酒田市役所4階庁議室 酒田市本町二丁目2番45号 |
| 出席者氏名 (敬称略) | <p>(構成員) 17名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酒田市副市長 矢口明子[会長] ・ 庄内交通株式会社代表取締役社長 村紀明[副会長] ・ 東北公益文科大学学部長 神田直弥[副会長] ・ 庄内交通株式会社専務取締役 本山経一 ・ 一般社団法人山形県ハイヤー協会酒田支部長 山崎正人 ・ 酒田市自治会連合会会長 阿部建治 ・ 酒田市地区自治会連合会会長 佐藤俊次 ・ 松山地域コミュニティ振興会連絡協議会会長 後藤吉史 ・ 平地域コミュニティ振興会連絡協議会会長 梅木春一 ・ 特定非営利活動法人酒田市障がい者福祉会理事長 佐藤健治 ・ 国土交通省東北運輸局山形運輸支局首席運輸企画専門官 大久保光康 ・ 私鉄庄内交通労働組合書記次長 屋代高志 ・ 酒田警察署交通課交通規制主任 鈴木一史(代理出席) ・ 庄内総合支庁建設部道路計画課課長補佐 本間直樹(代理出席) ・ 酒田市建設部土木課長 中村良一(代理出席) ・ 庄内総合支庁総務企画部総務課連携支援室長 中村秀毅 ・ 酒田市健康福祉部福祉課長 柿崎宏一 <p>(事務局) 5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画部長 阿部勉 ・ 都市デザイン課都市計画・地域公共交通主幹 本間克由 ・ 都市デザイン課地域公共交通係長 成澤直樹 ・ 都市デザイン課地域公共交通係主任 阿部吉成 ・ 都市デザイン課地域公共交通係主任 齋藤武有 |
| 欠席者氏名 (敬称略) | <p>(構成員) 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人山形県バス協会会長 伊藤一郎 ・ 八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長 長谷川裕 ・ 酒田市老人クラブ連合会会長 梨本利雄 ・ 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所道路管理課長 齊藤正志 |
| 協議題等 | <p>【報告事項】</p> <p>(1) 酒田市福祉乗合バスの運賃の変更について</p> <p>(2) 酒田市地域公共交通網形成計画中間モニタリング報告</p> <p>(3) 酒田市地域公共交通運行状況</p> <p>【協議事項】</p> <p>[議案第1号] 酒田市福祉乗合バス令和元年10月1日ダイヤ改正について</p> <p>[議案第2号] 酒田市福祉乗合バス古湊砂越駅線及び酒田駅かんぼ線の日曜日運行の廃止について</p> <p>【その他】</p> |
| 会議の要旨 | 以下のとおり |
| <p>【進行】事務局(成澤地域公共交通係長)</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>令和3年度に駅前のバス待合所が完成するので、それに合わせて路線再編を行いたいと考えている。目的は利用者の利便性を高めていくことだが、予算と運転手が制約条件となる。</p> | |

目的を忘れずに計画に沿って進めていくので、委員の皆様のご協力を賜りたい。
(事務局 (成澤地域公共交通係長)) 今年度の第 1 回目の会議であるため、委員紹介及び事務局紹介をさせていただきたい。

なお、構成員 21 名中、出席者 17 名、欠席者 4 名で、過半数の出席があるため、酒田市地域公共交通会議設置要綱第 7 条第 2 項の規定により、本日の会議は成立となる。

3 報告事項

(事務局 (成澤地域公共交通係長)) 要綱の規定により、これからは会長から議事進行をお願いする。

(議長 (会長)) 本会議の議事録署名は、本山経一委員、柿崎宏一委員に依頼したいがよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(議長 (会長)) それでは、「3 報告事項」について事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局 (都市計画・地域公共交通主幹)) 【報告事項 (1) 説明】

(議長 (会長)) 事務局から説明がありました内容について、意見、質問はあるか。

(村紀明委員) 報告事項 (1) について、原価が上がってきていると思うが、次回以降も値上げは実施するのか。

(事務局 (都市計画・地域公共交通主幹)) 今後も考えていかないといけないことだとは思いますが、利用者目線もあるため、相対的に判断していくことになる。

(村紀明委員) 使用料についての決まりごとではなく状況に応じてということか。

(議長 (会長)) 酒田市全体の施設使用料の見直しの中で、原価の半分に満たないものを上げるものだったが、2 倍を超えると市民への影響が大きいということで、2 倍を上限に引き上げることが見直しの考え方だった。

(事務局 (都市計画・地域公共交通主幹)) 【報告事項 (2) 説明】

(議長 (会長)) 事務局から説明があった内容について、意見、質問はあるか。もし酒田市地域公共交通網形成計画をお持ちでない方がいたら、事務局に一報願いたい。

(佐藤俊次委員) 報告事項 (2) について、川南地区の住民から接続性の向上について意見があった。今までの路線バスは、庄内交通のバスが通過してから酒田市のバスが通過するダイヤとなっていた。時間の変更は考えられるのか。

(議長 (会長)) 利用者からの要望は適宜伺っているので、事務局にお寄せいただきたい。

(事務局 (都市計画・地域公共交通主幹)) 具体的な路線を教えて欲しい。

(佐藤俊次委員) 具体的には酒田湯野浜線が通過した後に、酒田駅大学線が来るという形。その後のバスは 1 時間半ほどの待ち時間があるため、それなら自家用車で行くしかないという声があった。

(事務局 (都市計画・地域公共交通主幹)) 要望として受け止めさせていただきたいが、大学線の場合、往復運行していることもあり、極端に変えられないという実態もあるので、今後の検討とさせていただきたい。

(議長 (会長)) 大学線については、大学生の利便性に重きをおいて時刻を適宜改正しているが、ご要望は随時いただきたい。

なお、(2) 公共交通に対する検討会の設置数で、実際にはバス交通ファンクラブや平田自治会長会の勉強会を実施している。ファンクラブは利用者の声を聞きたいと思ってやってみたが、実際には将来的に乗りたいという方しか参加がなかった。利用者の本当の声を聞くためにいい方法があれば教えていただきたい。

(事務局 (都市計画・地域公共交通主幹)) 【報告事項 (3) 説明】

(議長 (会長)) 先ほどの報告事項 (2) で、計画を立てた目標値の設定方法に誤りがあったことについて謝罪したい。今後はこのようなことのないようにしたい。

報告事項 (3) について、酒田市としては 1 から 3 までの事業全てを考えていくということになる。市が直営で行っているものが 1 と 2、3 は民間事業者が行っているもの。

(佐藤健治委員) 先ほど平成 29 年度の一人あたりの運行単価は 455 円ということだったが、平成 30 年度は 573 円になっている。原価の 2 倍を超えた場合は、さらに使用料の見直

しを検討せざるを得ないということか。

(議長(会長)) 平成 30 年度末まで、2 倍を超えない範囲でという基準で酒田市全体の施設使用料の見直しを検討しており、一旦はそこで終わっている。今後の課題であるという認識。

(佐藤健治委員) 当面の見直しはないということによろしいか。

(議長(会長)) そのとおり。今は検討課題にはなっていない。ただ、収益率は上げていきたいと考えている。もともと採算はとれないため、全部運賃で賄うということは想定していないが、全体として引き上げていきたい。経費はかかるわけだがその分を収入で賄うため運賃を 2 倍にさせていただいたということがある。運転手が不足しているため、待遇を悪くするようなことはしないが、バス路線の再編として競合するところは合理化をして、経費がこれ以上増えないようにしていきたい。

4 協議事項

(事務局(都市計画・地域公共交通主幹)) 【議案第 1 号説明】

(議長(会長)) 13 ページの大学線については、大学の授業時間に合わせての時刻改正となる。注意書きにあるが、大学前から酒田駅前までは庄内空港からのリズムバスも運行している。飛行機の到着時間に合わせての運行のため時刻は明記できないが、自分が大学に勤めていた際に 4 便から接続されるバスを利用していた。こういうことも周知して、全体で考えていきたい。

ご質問がないようであれば、議案第 1 号について同意してもらえるか。

(各委員) 異議なし。

(議長(会長)) 議案第 1 号は承認された。

(議長(会長)) 続いて議案第 2 号について事務局から説明をお願いします。

(事務局(都市計画・地域公共交通主幹)) 【議案第 2 号説明】

(議長(会長)) 平均乗車人数としては、4 人を目安にこれまでやってきた。平均乗車密度は計算の仕方が違い、日曜運行を廃止することによって、目標としている平均乗車密度は上がることを確認している。古湊砂越駅線は 0.1、酒田駅かんぼ線は 0.2 増えるという試算をしている。平均乗車密度は、平均して常時乗っている人数のことで、なるべく空の状態で走らせないための目標値である。また、資料にあるとおり代替手段もあるので、そちらの方の乗車密度も上がれば良いと考えている。

(梅木春一委員) 古湊砂越駅線について、平田地区の郡鏡地域での説明会は実施したのかをお聞きしたい。また、3 件の意見があったということだが、具体的な内容を教えてほしい。

(事務局(都市計画・地域公共交通主幹)) 4 月の自治会長会の際に全体にお話ししたため、郡鏡地域に限っての説明会は実施していない。また、3 件の意見は全て市街地の方から意見を寄せていただいております、人数が少ないのであればやむを得ないという意見であった。

(梅木春一委員) 廃止ということではないが、先月の平田地区自治会長会勉強会のときも、郡鏡地区の自治会長から、非常に重要な路線なので絶対に廃止はしないでほしいという意見があった。今後、便数を削ることやコースを変更するという考えはあるのか。

(議長(会長)) 路線再編を 3 年後に向けて全体でやっていくが、その基準はたくさん乗っているところは廃止しないが、あまり乗っていないところは廃止、あるいは利便性の良いように変えていくということを検討していきたいと考えている。経費が大幅に増加しないようにしながら、どうしたら利用者を増やしていけるのかを平田も含めて考えていきたい。ぜひ利用していただければいいのだが。

質問がないようであれば、議案第 2 号について同意してもらえるか。

(各委員) 異議なし。

(議長(会長)) 議案第 2 号は承認された。

5 その他

(阿部建治委員) 各自治会長からの意見として、高齢者が多くなって、市役所や病院に行くのが不便だという話が出たため、どのくらい不便なのか検証してみようと考えている。山形市に行った際にバスを利用したが、うまく循環していたように思う。駅から市街地を回り、市役所や病院を通過して戻ってくるルートを考える際に、庄内交通の路線と競合してはダメなのか。

(議長(会長)) そういうことではない。酒田市の主要拠点が駅、中町、日本海総合病院となっている。できればどの路線もその拠点は通ってほしいと考えているため、そこを通る路線はその区間は競合するということになる。

(阿部建治委員) 今不便なのは、同じところを通過して戻ってくるため、倍以上時間がかかっているところがあること。円のようにぐるぐると回るような路線になればいいが。また、新井田川から南の方、亀ヶ崎一帯の松原学区の住民は、いなほに乗車する際に酒田駅に行かずに余目駅から乗車している。駐車場やバスの時刻等に不便さがあると聞いているため、電車の時刻に合わせてバスのダイヤも検討してもらいたい。

(議長(会長)) 今ご提案いただいたことも含めて、庄内交通さんと協議しながら今後3年間かけて検討していきたい。

(村紀明委員) 大前提としては利用者を増やしたいということがある。それを目指して、良いアイデアがあれば取り入れていきたい。乗りにくい運行ダイヤでは利用していただけないので、検討していきたい。

(議長(会長)) 先日新聞にも掲載されていたが、自治会単位で乗り方ツアーを実施したということがあった。庄内交通さんでは以前から体験教室を実施している。乗ることに慣れていただければありがたい。

(神田直弥委員) 現在公益文科大学と酒田市で協力しながらバスの利用促進に向けた取り組みをしようと準備を進めている。情報共有として報告させていただく。

昨年末から山形県警と教習所の協力を得ながら、70歳以上のドライバーを対象に行う高齢者講習の際にアンケートをとってきた。その中で、現在の車の移動の内、一部分を車以外に変えることは可能であると答えた方がほとんどだった。また、その内の2割ほどの方はバスを試してみようと思うという回答をしていた。一方で、バスを使っているという方は0%に近い状況だった。この結果を受けて、モビリティマネジメントの手法のトラベルフィードバックプログラムを実施しようと考えている。

日常生活における移動先と移動手段について記録し報告してもらい、そのデータを収集して、それぞれの人についてこの部分であればバスが使えるという具体的なアドバイスを行っていくというもの。アドバイスを受けて、行動プランを立ててもらい、2か月後に実際にバスに乗ったかどうかを確認していく。今回は市内循環右回り線、左回り線のバス停付近に居住地のある70歳以上の方200名、それから、庄内交通の酒田余目線とデマンドタクシーも走っている新堀地区の70歳以上の方200名を対象に行っていきたい。結果が出たらまた報告をさせていただく。

(議長(会長)) 神田委員からは以前より利用者促進の取り組みを行っていただいている。引き続きよろしくお願ひしたい。

(大久保光康委員) 公共交通会議の内容とはあまり関係がなく恐縮だが、貸切バスの契約についてお願ひがある。過去に事故があり、国土交通省としても関係者を含め一丸となって対策に取り組んでいる。ただ、依然として事業者によっては運転者の指導・監督が不適切だったり、車両の整備がなされていなかったりしている。安全対策にはコストがかかるため、適正な価格で契約してほしいというもの。

(議長(会長)) 運転手が足りないわけなので、安全性を確保するための費用はしっかりとしていきたい。

(阿部建治委員) 回数券は分けて誰が使ってもいいのか。

(議長(会長)) 大丈夫です。ほかに意見がなければこれで議事は終了としたい。

6 閉会

(事務局(成澤地域公共交通係長))

それでは、以上をもちまして、第1回酒田市地域公共交通会議を終了いたします。大変お疲

れ様でした。

令和元年7月4日に開催された、令和元年度第1回酒田市地域公共交通会議の議事内容について、上記議事録のとおりであることを確認いたしました。

令和元年7月9日

議事録署名人

酒田市地域公共交通会議委員

柿崎 宏一 

酒田市地域公共交通会議委員

本山 経一 